

市立幼稚園の配置見直し計画(案)の概要

少子化・過疎化に伴う幼児数の減少
幼児をもつ保護者ニーズの多様化

・市内幼稚園(市立3園・私立2園)の維持が困難
入園率は70%程度で、4園で定員割れが継続している現状
(幼稚園振興計画では、それぞれ幼稚園の運営及び経営の合理化を図るためにも、
将来は私立幼稚園中心で進められることが望ましいとしている)

幼稚園配置見直しの視点

- ・市立・私立幼稚園の役割分担
- ・母町地区3園、地域に2園の配置状況を見直す
- ・各園で、必要に応じて「認定子ども園」の導入検討
- ・市立、私立における保育料等の負担の格差検討
- ・障がい児受け入れの継続・充実

市立

- ・中央幼稚園
地域的な観点から、間口の縮減を行い平成21年度末をもって閉園とする
- ・三井美唄幼稚園
今後の入園児数の推移を見守り、単独での運営の継続、又は、閉園、保育所機能を付加した幼保一元化等について検討する
- ・栄幼稚園
アルテピアッツァ美唄と一体化した幼稚園であり、現状のまま運営を継続する

私立

- ・多様なニーズへの対応
- ・現状定員で運営を継続
- ・障がい児保育の継続
充実
- ・2園の存続